

ゆめ わらわ 夢 立身

菅波 茂

先月12日。第2回AMD A 南海トラフ地震対応プログラム調整会議がサントピア岡山総社で開催された。約170人が参加。議長団は片岡聡一総社市長、徳田善紀丸亀市副市長、そして私の3人。剣持堅吾総社市議会議長の歓迎のあいさつで会議が始まった。

第1部は輸送に関する協定締結。両備ホールディングス代表取締役専務の原雅之氏、牛窓ヨットクラブ副会長の磯部洋行氏と、AMD Aグループ代表の私とでそれぞれの協定書に調印した。その後、会議参加者全員の記念撮影を行った。

第2部は10委員会の各避難所の進捗状況に関

瀬戸健診クリニック、高杉こどもクリニック、藤田病院、吉備医師会、御津医師会。岡山中央病院と光生病院からも協力表

AMD A南海トラフ対応プログラムの最大のポイントとは、瀬戸内海周辺地域から総社市に避難する被災者の医療ケアである。これに対して、三宅周吉備医師会長から力強い対応のコメントをいただいた。松山正春岡山県医師会理事からも、岡山県医師会の南海トラフへの対応と今後の協力態勢についてコメントをいただいた。更に、横倉義武日本医師会長からもプラットフォーム化への支援を確約していただいたことも併せて報告したい。

また、11月9日に輸送通信シミュレーションを実施する計画が紹介された。瀬戸内海と四国山地越えがポイント。総社市―笠岡市―丸亀市―阿波市―美波町と、丸亀市―黒潮町のルートである。関連自治体の協力のもとに、陸海空路による移動。盛りだくさんの内容の第2回調整会議は、徳田丸亀市副市長の総括と成澤貴子NPOアムダ理事長のあいさつで閉会した。

医療機関がチーム派遣 AMD A南海トラフ対応

第2回AMD A南海トラフ地震対応プログラム調整会議



第2回AMD A南海トラフ地震対応プログラム調整会議の参加者

また、11月9日に輸送通信シミュレーションを実施する計画が紹介された。瀬戸内海と四国山地越えがポイント。総社市―笠岡市―丸亀市―阿波市―美波町と、丸亀市―黒潮町のルートである。関連自治体の協力のもとに、陸海空路による

来年2月に開催予定の第3回調整会議では、災害発生4週間目までの避難所と医療チーム派遣医療機関のマッチング、海外からの医療チーム派遣団体などを発表予定である。今回の会議では「AMD A南海トラフ対応プラットフォーム」により国内外の災害に対応することが採択された。海外のパートナーは、AMD A設立30周年を祝う会で紹介された、世界平和パートナーシップ(GPSP)の参加団体となる。今後とも、皆様のご理解とご指導をいただければ幸いである。(AMD Aグループ代表)